

三つの国と三つのポイント

金城学院大学教授
王文亮



皆様のお話を聞かせていただいて日中韓の政策対話の難しさを改めて感じさせられました。と申しますのは、一点目は三つの国は同じ東アジアの一員ではありますが、社会体制、政治体制の違いによって、政策決定の仕組みが異なっていることによります。

次は、この第二セッションの課題は高齢化社会の挑戦ということですが、この三カ国は高齢化をもたらした原因や背景が相当違うと思います。日本と韓国は基本的には近代化の結果であると説明できるわけですが、中国では高齢化は必ずしもただ単に近代化の結果ではなく、むしろ意図的な選択の結果であるということを確認する必要があります。

もう一つは、今後この三カ国において高齢化がどのような形で進んでいくのかという予測あるいは予測可能性も異なります。日本と韓国は、基本的に近代化経済発展および国民の自由選択の結果であるということから、安定した進展が予測されますが、中国では一人っ子政策といった意図的に実施された国家政策の一環であるため、将来、政策の変化によって相当大的な影響を受けると思われ、今後の高齢化の進展については予測不可能です。

日本と韓国は、お二人の発表にもありましたとおり、現在、高齢化社会の対応としていろいろな社会保障、構造改革を意欲的に進めているわけですが、中国が二人の大先輩からどのようなことを学べるのかについて、私なりの考えを申し上げたいと思います。

中国の社会政策について私はいつも辛口を言っておりまして、いつも甘いものを食べている人にとって、たまに辛いものを口にするのもおいしいのではないかとこのつもりで申し

上げます。中国がこれから急速に進んでいく高齢化社会にどう対応するのか三つほどポイントがあると思います。

一つは、きちんとした法体制の構築です。皆様もご存知のように、中国では高齢化社会に対応するために政策や条例のレベルで話が進んでおりますが、法体制はほとんど整備されていません。

二つ目は、都市と農村が一体化した対応策が必要であると思います。先ほど張さんのレポートにあった、現在実施されているモデルケースですが、これは基本的に都市部の話であって、農村部においてはそのような試行策はまだ実施されておられません。

三つ目は、市場の力、民間の力、さらに家族、個人個人の力も必要になってくると思いますが、一番重要なのは国がどういう形できちんとした責任を取るのか、つまり財政的問題および社会保障制度構築への取り組みです。この三つのことをきちんと考えなければ、中国が高齢化社会を切り抜けていくことは難しいと思われれます。

悲観的なことを言ってしまいましたが、これでコメントを終わらせていただきたいと思います。